



作家  
元国際線乗務員  
**黒木安馬**

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に「ファーストクラスの心配り」、「あなたの人格以上は売れない!」(プレジデント社)、「成「幸」学」(講談社)、「出過ぎる杭は打ちにくい!」(サンマーク出版)、「面白くなくちゃ人生じゃない!」(ロングセラーズ)、「小説・球磨川」(上下巻・ワニブックス)などがある。  
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.7b.biglobe.ne.jp/~sanpercent-club/

21世紀だ! ————— 人生・農業リセット再出発 208

# 人口減少が経済失速を招く……その嘘!

昨年、人口2,200万人のシリア内乱で600万人が北部国境のトルコへ脱出した。そこはヨーロッパの玄関口、難民の渦はトルコを通過してドイツ、フランスへ怒とうの民族大移動となった。

キリスト教のヨーロッパ諸国では人道的に彼らを追っ払うことはしなかった。シェンゲン協定によって一旦EU圏内に入るとパスポートなしで自由に往来が可能で、出入国審査はなく就労も容易になる。難民はイギリスへも押し寄せた。ロンドン郊外は山ひとつ無い丘陵地帯が広がり、牧歌的農村地帯がスコットランドまで続く。

世界の4分の1以上を植民地にした大英帝国とはいえ国土は日本より小さく、人口は日本の半分6,500万人。例えば、時給1,000円で働いていた平和な住民たちの所へ、難民が空腹をしのぐために時給300円でもいいから仕事をくれといひ始めたらどうなるか? 住民は失業し、村や町は大混乱に陥るだろう。

**ブ**レグジット (Brexit) は、イギリス (Britain) と離脱 (Exit) を組み合わせた造語でイギリスのEU離脱のこと。脱退の是非を問う国民投票では離脱多数となった。難民でイギリス国内経済が大混乱し、EU諸国と同調してもメリットはどこか、自国が自滅する危機感が蔓延していた。EU離脱が決まると、イギリスから逃げ出す難民が急増し、120万人にもなった。その結果、イギリスでは人手不足が深刻化し、それを技術投資の生産性向上策で乗り切ろうとする動きが始まった。するとイギリスの労働生産性は急上昇する。「労働力の減少は、英国に良い効果をもたらした。外国人労働者であふれてしまったことが、低賃金の職種において賃上げの抑制要因になっていたからだ。移民労働者が減れば、企業も地元の低熟練労働者を訓練すべく、技術投資を増やさざるを得ない。現在低水準にある英国の労働生産性も改善し始め

ている」と、経済誌にも書かれている。

—— ニートとは就学・就労・職業訓練のいずれも行っていない15～34歳までの非労働力人口のうち、通学・家事もしないで働く意思がない若年無業者を指す。イギリスの実例が示すように、日本が人手不足を乗り越える方法はあるはず。マスコミの論調は、“人手不足は外国人移民労働者推進”の一色だが、果たしてそうではない。現在の日本には、高齢者でも母子家庭でもなく、障害者世帯でもない、その他の世帯の生活保護受給が27万世帯もいる。生産年齢人口「男子」の生活保護受給者が働き始めるだけで、数十万人が新たに労働市場に参加することになる。ニートの数は、60万人以上もいる。日本では未だに、働くべき人が働いていないから人手不足という面も大いにある。日本は、地方の方が都市部よりも人手不足が深刻化している現実がある。

**少**子化に加えて、最も人口流出が著しい島根県の失業率は、なんと1%と完全雇用なのである。島根県では、高卒ですぐに働く若者は「金の卵」と呼ばれている。まるで東京オリンピックの頃、中卒で集団就職して地方から上京した高度成長期に似ている。それでもかたや、東京圏では「貧困女子」「貧困男子」が溢れかえり、困窮している。この偏りを直せば、いくらでも充実した高度な経済生活は夢ではない。ただ、それ以上に心配なのは、韓国が日本と米国寄りの安保体制の姿勢を急変させて、北朝鮮へと同化したらどうなるか。中国とロシアは朝鮮半島統一を応援する。すると、大陸+半島の社会主義連合⇔日米同盟のにらみ合いとなり、対馬を最前線に緊張が高まる。南北統一反対派と賛成派の内乱勃発で朝鮮動乱が起きる可能性は高い。遠い他国の出来事で他人事と思っていた難民脱出大移動の現象が、わが国の玄界灘と日本海で起こらないとは誰も保証できない。